

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成 23 年 1 月 18 日（火）13:30～15:30

会場：河津バガテル公園 オランジェリー

1 出席者

- ・ 河津町及び東伊豆町において様々な分野で活躍中の方 6名(男性4名、女性2名)
- ・ 傍聴者 約 140 名

2 発言意見

No	項 目	県関係部局
1	ニューサマーオレンジを活用した取組と課題	経済産業部 マーケティング推進課 経済産業部 みかん園芸課 くらし・環境部 自然保護課 文化・観光部 観光政策課
2	耕作放棄地対策、子どもたちへの花育、新規就農者等の支援	経済産業部 農業振興課 経済産業部 みかん園芸課
3	御石曳きの復活による地域づくりの取組	文化・観光部 文化政策課
4	交流居住の取組と課題	文化・観光部 交流促進課
5	伊豆が一体となった観光振興の必要性	文化・観光部 観光政策課 文化・観光部 観光振興課 交通基盤部 河川企画課 くらし・環境部 自然保護課
6	稲取の観光の現状と課題	文化・観光部 観光政策課 文化・観光部 観光振興課 交通基盤部 漁港整備課 交通基盤部 道路企画課
① ②	風力発電建設について	くらし・環境部 生活環境課 交通基盤部 森林保全課

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 ニューサマーオレンジを活用した取組と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲取で観光農園、ミカン狩り園を経営している。東伊豆は1年を通して非常に温暖なところでミカン作りに適した場所だと言われている。実際にたくさんの種類が栽培されており、ミカンの産地では、恐らく栽培している品種の多さが一番ではないか。 ・ ミカン狩り園でも数種類のミカンが採れることを、観光協会と一緒にアピールして非常に好評を得ている。2～3年前からミカンをとって食べるだけではなく、ジュースを絞って飲んだり、ジャムを作ったりする体験など、より魅力ある園になるように手を加えている状況である。 ・ ニューサマーオレンジは、非常に気候の好み激しいオレンジで、暖かい伊豆半島東海岸のようなところでしか作れない。これで何か商品を作ろうと、町内の異業種の3人で話し合ってサイダーを作った。元々商工会の地元農産物利活用の勉強会に参加したメンバーで、農業者、生産者である私、飲料の知識に詳しい酒屋、たくさんの顧客を抱えている園芸屋と、異なる職業の仲間が試行錯誤しながら作った。それぞれ得意分野があるので、一人では絶対できないものだということを実感した。 ・ サイダーを始め、ニューサマーオレンジを使った商品を詰め合わせてエントリーした全国商工会女性部「ふるさと小包グランプリ」コンテストでは、全国で6品しか選ばれないというグランプリをいただいた。 ・ いろいろな方と協力、連携し模索しながらやっているが、頑張れば人の助けもあり、不景気の中でもなんとかやっていけるということを実感した1年でもあった。しかし反対に、すべての農業者の課題でもある鳥獣被害が深刻化しており、対策を講じているが、決め手は無いのが実情である。何とかしなければ、農業者の生産意欲や、生産量の低下に繋がり、ひいては 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道などは凍てつくような寒さで最高気温が氷点下であり、オレンジなどは採れないので、グランプリを受賞したこのような小包を届けば喜ばれると思う。日本海側などにも、このような南国の香りがするものを届けることで、さらなる発展が約束されるのではないかと。ニューサマーサイダーもいろいろな形での利用法を見出していき、地域的にも、飲み方においても、小包の組み合わせ方も、さらに工夫されていくと思うので頑張ってもらいたい。 ・ 鳥獣の被害、特にシカによる被害については自衛隊に駆除の協力お願いしたが、狩猟免許を持っていて登録している人員が全く足りない。兵庫県でやっている狩猟免許を持った年金生活に入っている方たちを中心にアルバイトで臨時職員として雇い駆除しているというやり方も含め、伊豆半島だけではなく、大井川、天竜川の上流なども同じ問題を抱えているので、今年中にも具体策を考えていく。 ・ ただし、駆除すれば良いというものでもない。子どもたちが、シカやイノシシを食べ物として殺して加工するだけのものとして見ることがないよう、命をいただくことに対する感謝の気持ちや、人間がそういうものを殺さないと生きていけないということについて理解するための神社や供養等などが必要であると考えている。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>ニューサマーオレンジの生産量もどんどん少なくなっていくのではないかと心配している。その問題がなくなれば、農業者も元気になって、がんがんやっていけるのではないかと考えている。</p>	
<p>2 耕作放棄地対策、子どもたちへの花育、新規就農者等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花栽培をしていた夫のところへ嫁いだ当時は、生産したものを市場へ出荷するだけで市場の相場に左右されたり、バブルが崩壊して相場が下がったりする一方、重油代の高騰などもあり、年々収入が減っていくときだった。自分で作ったものに自分で値段をつけたいという思いから、二人で花屋に勤めていた経験を生かし、花の情報発信の場になればと直売所を作り、今年で18年になる。 ・ 最近では6次産業が盛んに話題となって推進されているが、生産なくして6次産業は成り立たない。私たちが実際やって感じるのは、生産したものを自分で売れるということは魅力的だが、自然相手の農業は甘くないのが現実で、両立を推し進めるのはかなりの努力と行動力が必要ということである。 ・ 耕作放棄地対策で新規就農者や企業に農地を貸し出しても、継続していくことはとても大変なことだと思う。そのときだけの政策に終わらずに、長い目で指導、助言をしてもらいたい。例えば直売量が増えて農業から商業的になってくると資金調達も農協から銀行へと関わりが変わってくるが、銀行では農業に関わる借入れはできない。伊豆の地域柄、地産地消型の農業が増えていくうえで改善して欲しい。 ・ 未来に向けて花や食物の関心を高めていくために、花育や食育という言葉があるが、小さいときに経験したことはいつまでも忘れないものなので、花や農業に触れ合う機会を学校の授業などで取り入れて、より多くの子どもたちに農業や伊豆の自然に関心をもってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産し、直売所で売るという新しいことをされた。しかし直売所は相手任せなので、市場を開拓するにはマーケットリサーチなどの戦略が必要。生産をないがしろにするわけにはいかないが、販売のことを考えないまま農協に全部任せていることを改めなくてはならない。 ・ 6次産業というのは、一人でやるということではない。一人で作って、料理して、お店をやって、一人で会計から何から全部やるということだと誤解されるとそれは違う。 ・ 生産者は作って、後は人任せというのではなく、地域の中で、どこで、自分のものがどのように売られて、どういう客層であるかということを中心に全部ネットワークで知っているということが大事である。一体感を持ってやらなくてはいけないというのが6次産業である。 ・ 耕作放棄地が使いにくい理由が、シカが来るということであれば、きっちり駆除する。その後シカをどうして売るのが考えたときに、人がそんなに食べなければ、現在高くなっているペット用の肉として売るなど、いろいろなやり方があるはずである。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や環境など守るべきものはたくさんあるが、地域や個人では限界がある。ジオパーク構想もとても興味深いもので、今の時代だからこそ大切にしなければならないものを見直す機会をこれからもどんどん進めていかれることを希望する。 ・ どの産業も厳しい中、私たち地域で活動している農業団体も経費が年々削られている。新規就農者などの助成ももちろんであるが、今頑張っている若い農業者たちの活動にも、さらなる応援をお願いしたい。 	
<p>3 御石曳きの復活による地域づくりの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲取若者会は、4年前、地元の同級生達と、このまちをもっと変えていきたい、変えるためには自分たちが何か行動していこうじゃないかという思いから立ち上げた。 ・ 会の目的は、いずれこのまちの中心となる若者たちの活気ある意見交換の場とし、このまちで働き暮らしていこうと思えるまちにしていくことである。自分たちがまだ知らない歴史、文化に触れ勉強し、生まれ育ったこのまちの歴史や文化を次世代の子どもたちに伝えていきたいとメンバーは男女合わせて約20名、他市町からも参加している。 ・ 最初に行ったのは、御石曳きの復活で、子どもたちに知ってもらい、参加し、ともに感動することで稲取の良さを感じて欲しいと願い、約400年前に行われていた史実を復活させた。金銭面では国土交通省の補助金を使い、曳き手の募集には、子どもたちへの歴史継承のため、稲取小学校、中学校で講演を行い依頼した。 ・ 3回目となる昨年は、大阪の高校から修学旅行のイベントとして体験させてほしいと依頼があり、高校生たちもとても感動して先生や旅行会社の方も涙を流して喜んで、大成功に終わった。 ・ 今後も、御石曳きを続けていき、この歴史を途絶えさせないようにしていこうと、またこんなことをやっている若者たちがいるまちだと、広く知れ渡 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御石曳きは、江戸城をつくるために、この伊豆半島の方から石丁場で石を切り出して運んでいった、その石を一番最後に運んだのがこの稲取の地だったということで、画竜点睛の点に当たるのがこの稲取の石ではないか。 ・ その石をどのように運んだかということが、同時に歴史を学ぶことになるというので、大阪の高校の子どもたちがここに修学旅行に来た。それは、歴史を学ぶと同時に、自ら体で学ぶことであり、一緒にやったことで皆涙を流したという。自分たちのまちおこしが、西日本の高校の教育の役に立ったということは、口コミで広まると同時に、高校生にとって一生の思い出になる。これから、仮にパートナーとこちらに旅行に来たとすると、自分は御石曳きをやったということで、必ずここを訪れると思う。大きな広がりを持つことなので、これは続けていただきたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>っていくことを目標に、これからも頑張っていきたいと思っている。</p>	
<p>4 交流居住の取組と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の交流人口、移住人口を増やすことによる過疎対策を目的にNPO法人を設立した。移住希望者と、既移住者から聞き取り調査を行った結果、二地域居住や完全移住、また団塊世代や子育て世代であれ、その動機、問題点は多種多様で、それぞれの家族にそれぞれのサービスが大切、必要ということを感じた。 ・ 平成20年10月に戸建ての中古住宅を借りて田舎暮らし体験館としてオープンし、体験宿泊している間に、移住希望者から相談を受けたり、相談先を探したり、またハローワーク、病院、学校へ行ったり、先輩移住者の話を聞いたりといった個別のサービスをしてきて、5組が移住を決意したが、地道な活動や不経済で、昨年8月に閉め、自分達の力の無さを痛感した。 ・ 今、取り組んでいるのは滞在型体験施設ふれあいの里河津で、元釣り民宿の1部屋と30平米の農地と人的サービスをセットにして提案している。 ・ 今までの活動を通じて移住先として、この地域の持っているポテンシャル（可能性）はとても高いと感じている。静岡県は、ある移住先人気ランキングでは3位に入っているが、東京のふるさと情報センターが調査した本気で移住を考えて、わざわざセンターに足を運んだ約1,000人の来場者を対象としたアンケートの結果では、ダントツの1位が福島県、2位が長野県であり、静岡県はたしか9位だったと思う。「福島行政のきめ細かな支援体制が功を奏す」というコメントがあった。 ・ 25年後の市町村別の将来推計人口は河津町の人口8,000人が5,000人まで減少、東伊豆町は1万4,000人が9,500人とあり、啞然とする数字である。 ・ 静岡県では、新たに交流促進課ができて、これからだと思うが、この地域の過疎化対策に強力な支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内各市町の合計特殊出生率を見ると、子どもを産みやすい育てやすいことが数字に表れており、地域のコミュニティーが良くできていることが、人を引き付ける条件になっている。 ・ 私は、産んでよし、育ててよし、住んでよし、訪れてよしを全体的につくっていきたいと思うが、一番の基礎としては子どもが2～3人いるという家庭が当たり前だということをどうつくっていくかだと思っている。 ・ 田舎暮らしは、都会暮らしの反対だと言われるが、人生の中で田舎暮らしをしたいときがある。歴史的に最初に都会をつくったイギリスでは、羊を飼うために田舎から人を追い出し、追い出された人たちは都会に行く以外になくて、そこで工場で働き、金持ちになった人が、やがて田舎に帰る。イギリスのジェントルマンというのはカントリージェントルマンと言われ、田舎に帰ることが人生の目的である。 ・ 日本人は、明治の初めに元勳たちが西欧に行き、都会に出ることが人生の、あるいはこれからの日本の目的だと思ったが、そこで働いている人たちは、働くためにいるところであり、早く引退して田舎に住みたいと思う、それが人生のぜいたくだと思っていた。だから田舎暮らしは実は近代の理想である。 ・ 家・庭一体の生活というものへのあこがれは、私たちは文化的遺伝子として必ず持っている。四季の変化を庭を通して知ることが日本人の原型である。だから家庭への回帰というのは必ず起こる。首都圏で2DK、いわゆる箱生活をしている人たちの憧れが今、田舎留学、山村留学として、子どもたちを田舎に送り、さらに屋上庭園などで緑の回復をしようとしている。 ・ 首都圏のお客様を迎えるには、都会の人たちの憧れの生活がここでできる

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>という観点で考え、首都圏に頻繁に出かけ見てこななければならない。自分たちは彼らの先にいる、一周先にいるという考えをもってやってもらいたい。待っているだけではなく、何とか攻めの観光をしてほしい。</p>
<p>5 伊豆が一体となった観光振興の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河津と言えば河津桜祭りで、100万人を超えるイベントとして伊豆半島全体の観光を牽引してきたが、現状では人数も頭打ちとなっている。 ・ 全国的にも千葉、愛知など日本各地に河津桜の名所が生まれ始めているが、悪いことではない。全国の河津桜の名所とネットワークづくりを進め、この河津桜の発祥の地としてのブランド力を高めていくために3月に河津桜サミットを予定している。これをきっかけにして、他市町との連携も含めて、河津桜祭りをより一層盛り上げていきたいと考えている。 ・ 河川改修の関係で、桜並木が途切れている場所が何箇所もあり、町民からの不満、不安も随分出ている。町主体で植樹計画などの策定が必要ではないかと思う。ただ、河津町だけではなく、伊豆半島全体で伊豆半島桜祭りというような形で、ランドデザイン（全体構想）をしていけばいいのではないか。 ・ 旅館組合で3年ほど前からカーネーション引き抜きボランティアを始めている。母の日を過ぎると花が咲いても引き抜くのもったいないということで始めたが、観光客が来て引き抜くことに初めは不安を感じていた農家の方たちも、実際やってみて良かったと感じ協力してくれるところが増えている。これを進めれば6次産業的な試みになっていくと思う。 ・ インバウンド（外国人旅行者の誘致）の取組についても、対策委員会を設け、誘客対策、情報発信及び受け入れ体制、インフラ整備の両面について、できることから実施している。七滝地区は国立公園内のため観光用看板の設置や、足元灯の設置など規制が 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆半島にはありとあらゆる桜が咲く、なかでも河津桜は早咲きなので1月、2月頃から楽しむことができるということを伊豆半島全体の財産にしていく考えはすばらしいことだと思う。そのために桜祭りなどの企画があるとのことなので楽しみにしている。 ・ 河川改修については、危機管理が一番大切である。老木が土手の内側に植えてあるために大雨などで土手を乗り越えて溢れることがあってはいけない。河川改修と桜見物を両立していくことを考えなければいけない。 ・ カーネーションの引き抜きは無駄にしないという考えが良い。無料で分けるのも良いが、花を愛する人達にコストを含めて負担してもらってもできるのではないか。 ・ 6次産業の話がでたが、違うもの同士を、ある物、ある人を媒介にしてくっつけるクロスカップリングを、花を通して行っていただきたい。 ・ インバウンドを行うためには、アウトバウンド（外国に出掛ける）も行う必要がある。行ってみれば向こうの人達の好みがわかり、生活スタイルやマナーの違いもわかる。お客を引き付けるためには自分達が新しいお客様として狙っているところに行かなければだめである。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>あり、自由な活動が厳しいので規制緩和について、県のバックアップをお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 河津は他の地域に比べ発信力が弱いので、伊豆の中の河津として、伊豆半島全体を情報発信し、伊豆半島の真ん中河津というような形でアピールしていけないか考えている。よく伊豆は一つという掛け声があるが、本当に一つにならないと生き残れない時代が来ていることを痛感している。伊豆が一つになる枠組みとしてジオパーク構想に期待している。 	
<p>6 稲取の観光の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲取温泉は、日本温泉百選のランキング付けで前年度全国62位から44位に大躍進をしたが、これほど急激に伸びている温泉地はないため、新聞記事では地域の取組の差が順位に表れたと解説している。評価が急激に伸びたのは観光協会事務局長の全国公募や地元の出資による稲取温泉観光合同会社を設立し、着地型旅行商品の創成、販売等をしたことが旅行会社の方々に認められた結果だと思う。 現在、様々な問題に取り組んでおり、去年の11月に稲取漁港周辺のハード、ソフトの整備について話し合う推進部会が設立されたが、各産業が集まって大々的に取り組むことは今までなかったことである。稲取の象徴はキンメダイであり、漁港を中心とした港町情緒豊かな温泉地として位置づけるためにも、漁港周辺の整備に本腰を入れて進めている。県にもアドバイスをいただくなど協力してもらいたい。 雛のつるし飾りも河津桜同様来館者数が減少傾向になってきている。歯止めをかけるために、雛人形店や手芸教室などに宣伝し、新たな顧客誘致活動や関東一円のJR等にポスターを貼るなど今までにない告知を行っている。また、時期が河津桜と同じであり、雛を売りながら河津桜を売ることによる相乗効果が期待されるので、地域は一つとして連携を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 稲取温泉は、観光協会事務局長を全国公募で選んで、外から新しい知恵、いろいろなところを見ている人のアイデアを生かしたというのが良い。同じように自分たちも外に出て、外から見してみる、そのようなネットワークが稲取温泉はできているという強い印象を持った。 キンメダイと言えば稲取であり、稲取漁港であるという、この地域のアイデンティティ（独自性）と、発信力を持っている。これと温泉を結びつけるというクロスカップリングが稲取だからできる。どこの真似でもない、漁港と、港町と温泉を結びつけるということは、きっと成功するのではないかな。 雛のつるし飾りも河津桜と一緒にやることによって伊豆半島を一つにしていっての方が、かえって相乗効果が出てお互いのためになる。情けは相手のためならず、相手のために行うことが大事である。行政区が違うが、一緒に組もうという人が出てくれば変わると思うので変えてほしい。 山梨、静岡、神奈川県の知事サミットで富士山と箱根と伊豆半島を一つの観光圏にするという申し合わせを行っている。箱根、十国峠に出掛け、そこから伊豆半島には伊豆スカイラインを使えば200円で行けると宣伝してくれば良い。観光客が来れば良いと思っていただけ。こちらに来や

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> 首都圏の方を中心に、これまで伊豆半島に来るお客さんには、休前日、土曜日などは、渋滞がひどく伊豆には行きたくないと言われてきたが、料金の値下げにより渋滞を緩和できる伊豆スカイラインの利用が増えており、良い評価を得ている。伊豆スカイラインが200円の料金体系を組んでも、十数%の上昇に止まっていることについては、告知のあり方も考えていかなければならないと反省もしているが、継続すれば伊東、東伊豆、南伊豆地区の温泉地への利便性は間違いなく良いので、そのような声があることを考慮してもらいたい。 	<p>すい条件をつくってあげれば良い。スカイラインに関しては、残り2ヶ月でどのくらい利用率が上がるか、しっかり見ていきたい。</p>
<p>傍聴者からの意見：風力発電建設について</p> <p>発言 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在計画をされている風力発電について、仲間たちと風力発電の建設を契機に、将来を見据えて力強い地域にする道はないか話し合っている。地球温暖化や、石油などの地球埋蔵資源の枯渇などに関心が高まり、果たして子どもや孫の時代がどうなるのかと心配をしている。 今回の計画は精密な調査により、伊豆では並ぶところがないほど、風力発電に適した場所ということがわかる。これからの時代にふさわしい地産地消型の電力確保の道だと思う。 風力発電は新しい大きなプロジェクトなので、実現に向けた問題としてはいくつか課題はあるが、水力、太陽光発電なども含めたクリーンなエネルギー供給基地に自然豊かな山村山林空間の活用対策を組み合わせた21世紀型誘客対策をぜひ実現させたい。実現に向けて県の知恵、力をぜひお借りしたい。 <p>発言 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 風力発電に関して、エネルギーの枯渇は子々孫々に対して心配だが、風力発電そのものの評価がまだされていない。エコロジーに貢献するものである 	<ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーが大切であることに恐らく異論のある方はいない。その対極にあるのが安全性を確保しながら危険性も考えなければならない原子力発電である。できれば自然エネルギーにするのが良いが、供給量を考えるとそれに頼らざるを得ない。 風でエネルギーを得るのはすばらしいことだが、各地区で低周波の問題も起こっている。国が調査をしているが、まだ結果がでていない。 明らかに皆さんの間でも意見が分かれており、地域の意見を町で集約してもらう必要がある。ただ手続き上保安林を解除することに何の問題もなく来ているので、そのことと、本当に風力発電しか方法はないのか、他に代替は無いのか、20年後にはどうするのかなど考えていかなければならない。 このことによって、町民の対立が起こるようなことはあってはならない。両方とも地域を愛するところから始まっている。そのために有識者会議を立ち上げ、客観的な観点から伊豆半島につくることについて議論していきたい。地域の人たちがゼロベースで話し合う時間もまだある。有識者会議はオープンな場で議論が聴けるようにし、

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>かは、低周波などの身体的影響や騒音など、いろいろなことについて検証を待たなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今回の計画が成立すると細野高原は台無しになってしまう。自然エネルギーの方法は風力発電だけではなく、いろいろある。この計画は町を挙げてやるものではない。一部の地域の人々の利益、利権のためであり、多くの町民は不安を持っている。	<p>誰もが安心して、これで行こうとなったところで決断をしたい。もう少し時間をいただきたい。</p>